

2022年6月

1、本園の教育目標

キリスト教精神を土台とした人間教育を目的としており、乳幼児期における健全な心身、宗教的情操、隣人愛等の育成に重点をおいている

- 1、生涯の土台作りのために、いろいろな実際体験を保育に取り入れる。
- 2、一人ひとりの人格を大切にし、心の行き届いた保育をする。
- 3、豊かな心、信頼の心、感謝の心、意欲的な心の土台を育てる。
- 4、神様からいただいた身体を大切にすることを育てる。
- 5、友だちと共に生活することに喜びを持つ心を育てる。
- 6、自分からあそびに取り組んだり、自主的に活動できるように援助する。
- 7、家庭と園の協力を大切にし、保護者と保育教諭が協力しあう。

2、本年度重点的に取り組む目標・計画

- ① キリスト教保育の指針に基づき、神様からいただいた自分の身体を自分自身が愛し、大切にすることができるように、そして、自分と同じように、他の友だちの身体も大切にできるようにするためにはどのような大人の関わりが必要なのかを新しく取り入れる研修の中で学ぶ。
- ② 発達に添った生(性)に関する教育プログラムの実施をする。保育士も同様に幼児期における性的関心と行動の理解を深めるための学びをする。
- ③ 子ども一人ひとりの多様性を理解、尊重しながら、一人ひとりがどのような援助をし必要としているかを把握し、生活上の困り観を改善できるような関わりをし、子どもが自己肯定感を高め、生活をしていくためには、どのような取り組みや環境作りが必要であるかを、特別支援教育の立場から、研修を受け、学び合う。

3、評価によりみえてきた主な課題とその取り組み方法

評価項目	努力点・改善点	具体的な取り組み方法
環境構成	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自分で好きなあそびを選び、楽しみ、自由に考え表現できるように、年齢や発達に応じたあそびの環境を工夫し、提供することができた。子どもから出るアイデアに学びがあった。 ・子どもの成長に応じたおもちゃ作りし、子どもたちのあそびの環境を整えることができた。 ・コロナ禍で、除菌や消毒、換気は常に意識して行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あそびの環境を整えるため、話し合う時間を計画的に取り入れ、アイデアを出し合い実施することはできたので、さらに子どもの遊びの様子をよく観察し、子どもたちの興味関心を満たし、感性を引き出せる環境整備を心掛けていく。 ・園全体が常に気持ちの良い空間であるように、職員一人ひとりが意識を持ち、環境を整えていく。 ・戸外でのあそびの中で自然を身近に感じ、五感を使って感性を豊かに育むことができるあそびの環境を作る。 ・引き続き、子どもたちと共に感染予防対策を行い、日頃の生活の中で感染症について理解を深めていく。
資質向上	<ul style="list-style-type: none"> ・今年初めて、全職員の宿泊研修を実施した。(宿泊は希望者)坂根シルック先生を講師に招き、「自他の違いを理解し、その違いを強みにするチーム作り」を主題に、豊かな自然の中で、二日間学び、親交を深めることができた。 ・その他、コロナ禍で、WEB研修を中心に多くの職員が学ぶ時を持つことができた。 ・各学年で取り組んだ園内研修は、それぞれの学年の育ちを顧みて、それぞれの年齢の発達に必要な研修内容であり、その内容を職員間で共有する時間を持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度もWEB研修を中心に多くの職員が質の良い研修を受け、内容を共有できるよう体制を整えていく。 ・2022年度は、特別支援教育の立場から研修に取り組むので、昨年度と同様、それぞれの学びが保育に生かされていき、また、園全体で学び合う機会が持てることと期待する。 ・コロナ禍だからこそキリスト教精神を土台に据え、神様からいただいた心と体を大切にするために、今、子どもたちに身につけてほしい力とは何なのかを職員も学んでいく。 ・専門性を高めるための研修に積極的に参加し、職員全体で取り組めるようにする。 ・月に1回、牧師による聖書の学びを通して、聖書に触れ、神様のメッセージを聴き、自分自身の幅を広げるものとしていきたい。
保育計画・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・週案で活動内容や子どもの様子を伝えあうことができたので、時間を有効に使い準備することができた。 ・感染拡大予防の為、保護者参加の行事は規制しながらの実施となったが、昨年度よりは感染予防対策の上実施でき良かった。 ・子どもの表情やしぐさなど気を付けてみていき、肯定的な声掛けを意識して行ってきたことで信頼関係を深められた。 ・実体験を大切にするため、戸外での活動や、食育に関する活動は大切にできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、週案作成、リスクマネジメント委員会、給食委員会などの必要性の高い会議は、確実に行うことができ、情報も共有できた。学年の話し合いについては以上児クラス、未満児クラス共に、計画し、時間の確保ができた。 ・保護者に子どもの成長が見える方法を考え工夫していく。 ・栄養士との連携を図り食育を推進していく。 ・子どもたちと、食することの大切さや、命の教育に繋がる経験が持てるよう努力していく。(堆肥BOXで堆肥を作る) ・環境教育にも力を入れ、神様が作ってくださった地球を守るために、私たちができることを考え、体験していく(大人がSDGsに関心を持ち、生活する)
保護者 地域連携 子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で行事も減り、門扉での受け渡しになったため、保護者と直接会って、話をする機会が減った分、コドモンを利用し、子どもの様子を伝えていった。しかし、十分に伝わらない部分もあり、伝え方情報の発信の仕方改善の必要があった。 ・子育て支援については感染の拡大により、中止をする時もあったが、予約制にし、可能な限り実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍だからこそ、保護者の気持ちを受け止め、子どもの成長のために、情報の発信を細かくしていく工夫をし、園と保護者が同じ方向を向き、安心して子育てができるような関係性を築いていきたい。そのためには、園の取り組みが、保護者にもっと伝わるように「コドモン」を活用し発信する工夫や努力をする。 ・子育て支援においては、人数制限等の感染防止対策を取りながら、地域で子育てをしている母親の居場所となり、安心して相談できる場所となるよう、引き続き努力して実施する。

職員間のコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 職員会、リーダー会、学年の話し合い等定期的に計画をし実施できた。パートの職員の参加により学年の職員間の情報共有ができた。話し合いの内容の見える化に心掛けた。 保育の中で起こった出来事や伝達事項の報告、連絡、相談が滞った事案があり、迅速な対応に繋がらなかった。報・連・相の大切さを確認し合った。 レクレーション系の推進により、職員間の親睦を図るための企画をし、コロナ禍でも職員の交流を図れる工夫をした。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員のコミュニケーションを図るため、共通認識の必要性に重きを置き、改善していった。特に今年は情報の見える化に取り組み、情報が伝わりやすく皆が共有することができ、良い関係性ができてきたので、引き続き実施していく。 当園の規模で職員間で情報共有して保育に携わるためには、小さなことでも、報告・連絡・相談を確実にし、解決策を見出し、迅速に対応していけるように職員間で確認し合う。 感染防止のため、職員間の交流を図る手立てが限られてくるが、その中で、できることを考え、アイデアを出しあって親睦を深めていきたい。
---------------	--	---

4、総合的な評価結果

<p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、保護者の理解を得ながら、園独自の感染予防対策の基準を作り、その基準に従って行事の見直しをし、実施方法を職員の意見交換や話し合いを通し決めていった。</p> <p>また、感染防止対策で園敷地内入場制限が長く続き、保護者とのコミュニケーションが取りづらい状況となり、園や子どもの様子が保護者に伝わりにくかったので、情報発信していく手立てを工夫した。</p> <p>今年度、新しくICT整備事業を行い、「コドモン」の機能を利用して、保護者への連絡方法や子どもの園内での様子の発信も心掛けた。しかしコドモンの機能を十分に利用できていず、子どもの活動や園が行っている保育についての発信が足りず、保護者に園の保育内容を充分伝えることができていなかった。</p> <p>4年前から、重点的に取り組んできた乳幼児期における生（性）に関する教育プログラムを引き続き行った。</p> <p>また、11月に園の全職員参加の研修を行い、その中で、小城ルーテルこども園が大切にしてくる保育の在り方（皆同じように神様に愛されている存在として、一人ひとりを理解し、個々にあった援助をし肯定的に、丁寧に関わっていく）を皆で再確認して歩むことができた。</p> <p>特別な支援が必要な子どもも増えてきている状況であるため、家庭や関係機関との連携を図りながら、一人の保育者で対応するのではなく、園全体で見守るようにし、個別の支援計画を作成し支援にあたり、その子が認められながら、他児とのかかわりの中で成長していけることを大切に捉え、対応していった。2022年度は特別支援教育の立場から、専門的な学びをし、さらに深めて実践できるように、この分野の研修を重点的に受ける。</p>
--

5、今後の取り組むべき課題(昨年度に引き続き取り組む)

課題	取り組み方法
コロナ禍における適切な保育活動を探り求め実践する	キリスト教保育の指針に基づき、神様からいただいた自分の身体を大切にすることができるようになるために、新型コロナウイルス感染症による乳幼児の心身の育ちへの影響を研究し、保育者の適切なかわりを学ぶ。
保護者や、地域への情報公開と情報発信	園の教育方針や大切にしていることや、保育内容が保護者や地域の方に伝わるには、どのような情報の発信をすればよいのか、方法を考えていく。コロナ禍で日頃の子どもの様子や活動内容などの発信もICT活用など、工夫しながら発信していけるよう努力する。
特別支援の推進と子育て支援の充実	一人ひとりの子どもの多様性や個性を包み込む教育、保育を目指し、保育環境や指導の改善を進める。 子ども、子育て支援の拠点として、地域の子育て中の親子が安心して集うことができる親子の集いの場を提供し、相談等の機能を果たせるように内容を充実させていく。 (サークルドレミの充実)

6、学校関係者の評価

<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中、様々な工夫をしながら、子どもたちや保護者の方たちと関わっている様子や、環境面だけではなく、職員間でも「園全体が常に気持ちの良い空間であるように」をこころがけておられる様子が伝わり、とても実りの多い活動をされていると感じます。 コロナ禍でいろいろ大変だと思いますが、その中でもいろいろ工夫をされて、園、保護者、地域としっかり連携しながら、園の運営を行っていただきたい。 コロナ禍の大変な中、ICTを導入され、保護者への発信を工夫されているのを感じました。振り返りを今後活かして、子どもたちの環境がより整っていかれることと思います。スタッフが意欲をもって安心して子どもたちに向き合うことのできる環境も整っていかれることと思います。 コロナ禍の中、何とかして園の様子を保護者の方に伝えようとされている取り組みは素晴らしいと思います。 <p>特別支援に関しては、先生方の「多様性を尊重する」姿勢が大切であると同時に、一人ひとりの子どもたちの特性を把握するきっかけとしての専門家のご意見やご協力を仰ぐことも必要なことだと思います。</p>
--

7、財務状況

<p>公認会計士監査により、園の運営、財務管理は適正に行われていると認められています。 (公認会計士 藤崎 武 公認会計士 坂田 達哉)</p> <p style="text-align: right;">監事 井場 和子 監事 山本 康徳</p>
--

